

平成24年度の研究開発評価活動に関する意見交換について

個別機関の意見交換について

1. 目的の確認

- ① 評価指針のフォローアップとして、研究マネジメント（PDCAサイクル）における評価のあり方や、評価を研究マネジメントに活用するにあたって直面している課題等の情報収集と分析を行い、国全体としての評価システム改革の推進に資すること
- ② 評価の“グッド・プラクティス”を探し出し、事例集の公表や、シンポジウム等を通して他の大学や研究機関等へ情報を提供し共有すること

2. 第25回検討会における意見交換についての議論の振り返り

- ・ テーマが幅広いため、議論の焦点を絞りにくい。具体的な課題について積み上げの必要を感じる。

【テーマ設定】

- ・ 極端な事例について話を聞くことが潜在的な課題について考える契機にもなるので、そういった事例を聞ける大学を訪問することは意義が大きい。

【選定のねらい】

- ・ 大学の種別（研究志向大学か教育大学か、等）によって、どのように研究戦略を立て、評価を活用するか、カテゴリー分類した上で議論しないと、踏み込んだ意見交換を実施するのは難しい。

【テーマ設定と選定のねらい】【意見交換の実施方法】

- ・ 大学も評価についての意識が高くなり、評価指標等、具体的な質問を受けることが増えてきた。これらのニーズに対応していく必要がある。

【意見交換の実施方法】

- ・ 独立行政法人に対してもいずれかのタイミングで再度意見交換を実施した方が良い。

【選定のねらい】

3. 具体的な改善方策（案）

	23年度	24年度
【テーマ設定】	・ 研究マネジメントに活かす評価（H18~23）	・ テーマをより絞り込む
【訪問機関の選定のねらい】	・ 規模、種別、理系分野があるかどうか等	・ 絞り込んだテーマに沿って機関を選定する。
【意見交換の実施方法】		
<訪問体制>	・ 主担当を決め、当該委員に発表と意見交換の進行を依頼	・ 昨年度と同様
<事前アンケート>	・ 全機関、同じアンケート内容、質問項目	・ 絞り込みテーマに沿ってアンケート内容を変更
<事前打ち合わせ>	・ 当日事前に進行を確認	・ 絞り込みテーマに沿った選定機関については、可能な限り事前に対面で打ち合わせを実施

【訪問機関が抱える具体的な課題の積み上げと分析】	・アンケートにより「障害となっている点、その理由」は聴取しているが、結果の分析や解決策の提示は行っていない。	・これまでの意見交換で得られた課題等の積み上げと分析は、総括で実施。 ・アンケートに具体記述欄を設け、こちらに質問したい事項についても、あわせて記載してもらおう。
【訪問機関対応者】	・学長、理事、部局長等の評議員クラス	・二部構成とし、実務的なところを意見交換できる場を設ける。
【訪問機関からのフィードバック】	ー	・意見交換終了後にアンケートを実施
【実例集】	・冊子を作成するとともにホームページで掲載。	・再度、検討会でまとめ方を議論（ターゲット、種別化等）

4. 絞り込みテーマ（案）

- ・学際・融合領域の評価
 - ー学際・融合領域を創出するための現状分析や施策、育成するための評価の在り方、課題等について理事クラス等と意見交換
- ・研究の社会貢献に対する評価
 - ー産学連携、地域貢献、若手研究者育成等に対する評価をどのように行っているか、理事クラス、研究者との意見交換
- ・評価人材育成
 - ー研究開発マネジメントに関する大学等の支援人材をどのように配置しているか、これらの人材に必要な評価の視点等について理事クラス、現場若手職員等と意見交換

5. 引き続きの検討事項

○意見交換の成果の有効な活用方策について

- ・成果の活用方法（現在）
 - ー実例集を作成し、ホームページに公開するとともに、シンポジウム等において事例の紹介
- ・成果の有効な活用を促すためには、現場（大学・独法等）にとつての「グッドプラクティス」とは何なのか、整理が必要
 - ー誰をターゲットに？（理事か／教員か／事務職員か）
 - ーどのような性質のもの？（理念的なものか／手法等のテクニカルなものか／施策等のアイデアか／各々の大学が行っている工夫か）